

髪色と内面性の関係

中尾 早希（文教大学情報学部メディア表現学科）

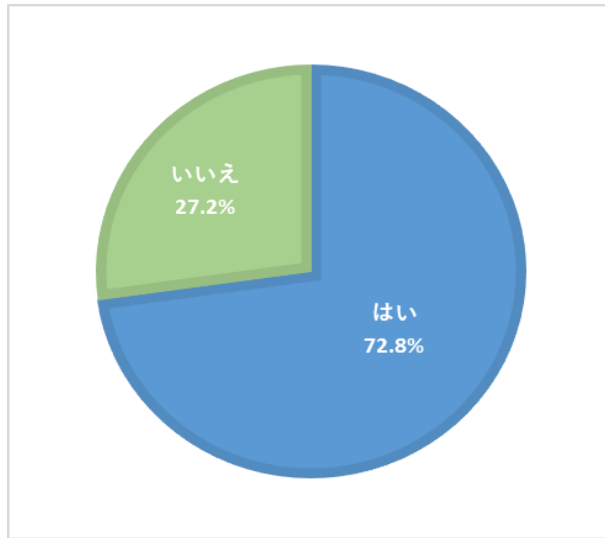
1. 序論

本論文の目的は、髪色が与える他者から見た外見的印象と性格の関係性について考察することである。

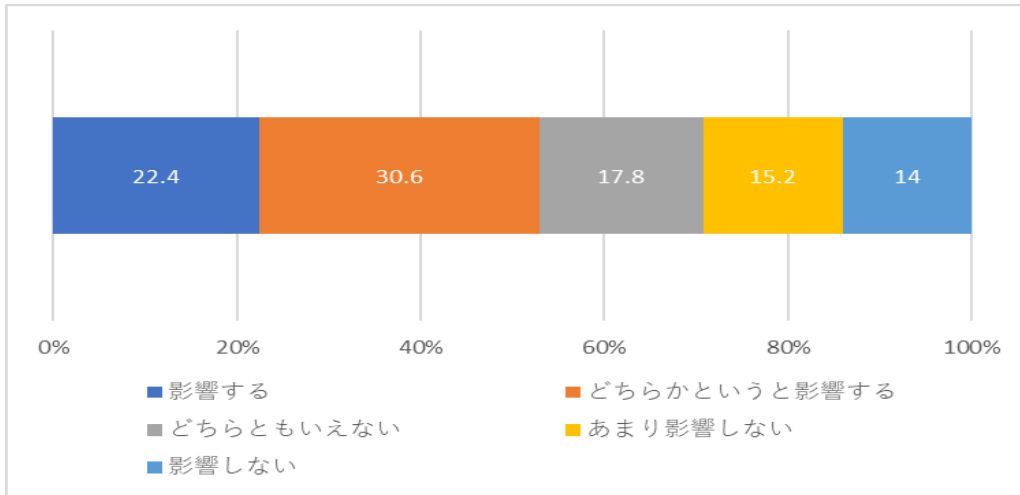
近年髪色に対する自由化を求める声もあり、2019年にP&Gは「#HairWeGo さあ、この髪でいこう。」のキャンペーン第四弾として『#令和の就活ヘアをもっと自由に』プロジェクトを展開した。第一印象が重視される就職活動では、日本人従来の髪色である黒が社会的に望ましいとされ、人々は独自の個性を無くしている。このことから、P&Gは、髪から始まるもっと自由な就職活動”に賛同する139の企業とともに、ひとりひとりの個性を尊重した前向きな就職活動をサポートするため広告や動画を公開、髪色への自由化を求める活動を行なった。2021年1月現在、P&Gの公式YouTubeでは1千万以上再生されている⁽¹⁾。

また、2019年に行なわれた卒内定者の先輩500人（男性124人・女性376人）を対象とした、『髪色は就活中に影響があるか』のアンケートでは7割以上が「就活に髪色が影響すると思う」と回答した(図表1)(株式会社クロスマーケティング)。ところが、1年以内に新卒採用に携わった採用担当者500人に『選考に髪色は影響するか』アンケートした結果では、約半数が「影響する」、「どちらかというに影響する」と応え、影響しないと応えた採用担当者もいた(図表2)(楽天インサイト株式会社)。影響しないと応えた採用担当者は「髪色とその人のやる気や能力、人柄などとは関係が無い(銀行／人事歴2年目／男性／30代)」、「髪色は個人の自由だから(コンサルティング業界／人事歴5年目／男性／40代)」という意見であった。また、「業務に差し障りが出るような配属になった場合は、入社後に指摘する」という意見もあげられた⁽²⁾。その他にも髪色の自由化を求める例として、アルバイトなどの職場を探すことができるWebサイトやアプリケーションの条件選択の欄には「髪色自由」という選択欄があり、髪色に対しどこまで厳しいのかをアルバイトを選ぶ際に選択することができる。

図表1 就活に髪色は影響があるか（内定者 n=500）



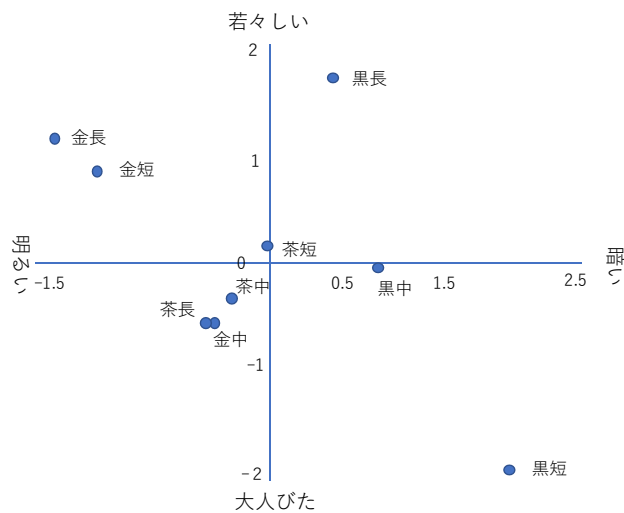
図表2 選考に髪色は影響すると思うか（採用担当者 n=500）



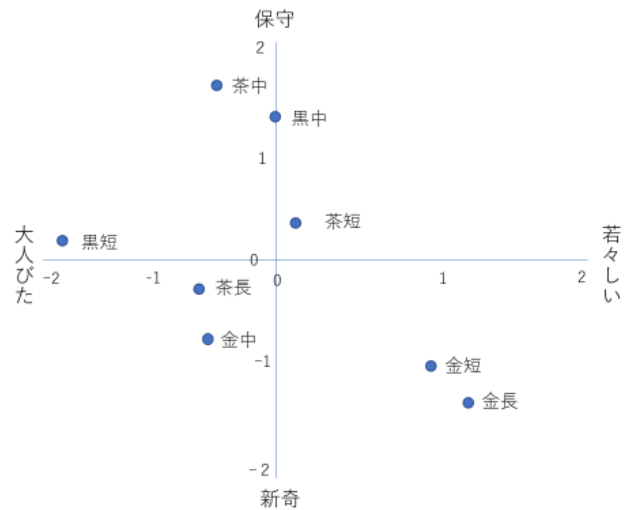
「髪色と長さが第一印象に及ぼす影響」(2015 森岡陽介)^[3]の先行研究では、大学生44名(男性28名, 女性21名)に9カテゴリ×3枚の合計27枚の女性の写真を一枚ずつランダムに呈示し、その写真の人物から受ける印象として適切なものを10項目の形容詞対で評定した(図表3, 4)。INDSCALモデルによるMDSの次元布置の結果、活動性因子得点については、ショートでは黒髪よりは茶髪、茶髪よりは金髪で活動性が高く見られ、ミディアムおよびロングにおいても黒髪および茶髪よりは金髪の方が、活動性が高くみられた。柔和性因子得点に関しては、ミディアムとロングでは、黒髪、および茶髪が有意に柔和性は高かった。しかしながら、ショートでは黒髪が最も柔和性が低かった。

結果の考察では、活動性においては日本人生来の髪色が黒髪であることから、黒髪を基準に置いた人が多かったため、基準である黒髪から大きく逸脱した金髪は活発的で個性的な印象を与えたのだと考えられていた。また、黒髪ショートは、成熟した女性を想起させるものと考えられていた。そこから家庭的な女性、母性に結びつくと考えられるが、これらのイメージは単にのんびりとした優しさではなく、大人の芯の通った印象を抱かせるものと考えられていた。それに対し、黒髪や茶髪のミディアム、およびロングヘアは大学生という若年層では一般的なものであり、かつ新奇性も少ないことから、芯の強さや個性的な印象が薄れ、女性の持つ柔らかい印象だけが評価されやすくなった可能性があると考えられた。

図表3 色次元と成熟次元(2015 森岡陽介)



図表 4 新奇性次元と成熟次元(2015 森岡陽介)



髪色を自由にしたいという声がある中で、第一印象はやはり大切になる。そこで、本論文では性別によって髪への興味の違いや実際の性格と他者が髪色から受ける印象の違い、髪を染める事への理由を考察していく。

2. 予備調査

調査時期

2020年8月4日 木曜日

調査方法

Google アンケート

調査対象者

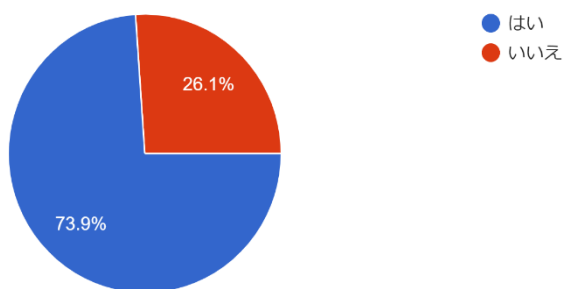
上記の講義の受講生 23 名 (男性 10 名、女性 13 名、; 平均年齢 20.69 歳)

予備調査の結果

図表 5 は、「大切なのは外見より中身である」の設問の回答結果である。【中身の方が大切】と考えている人が、73.9%であり、【外見のほうが大切】という考えの人は 26.1%であった。ここでは、大学生が私生活を送る上で付き合う人は、外見よりも中身を重視している人の割合が大きいということが分かる。

図表 5 外見と中身について

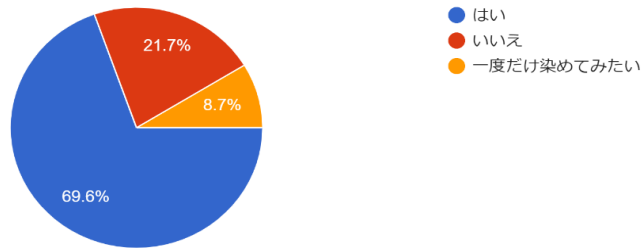
大切なのは外見より中身である
23 件の回答



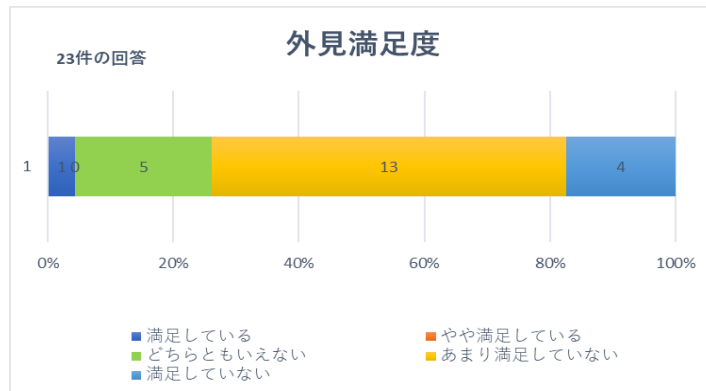
図表 6 は、「髪を染めることに興味があるか」の設問の調査結果である。【興味がある】と回答したのは 69.6%であり、【興味がない】と回答したのは 21.7%であった。また、【一度だけ染めてみたい】と答えたのは 8.7%であり、そこまで興味を持っていない人でも一度は髪の毛を染めてみたいという願望を持っていることが分かる。グラフ全体では、髪を染めることに興味のある人の割合は、大多数を占めることが分かり、「髪」という外見の変化に興味を持っている人が多と考えられる。

図表6 髪を染める事への興味

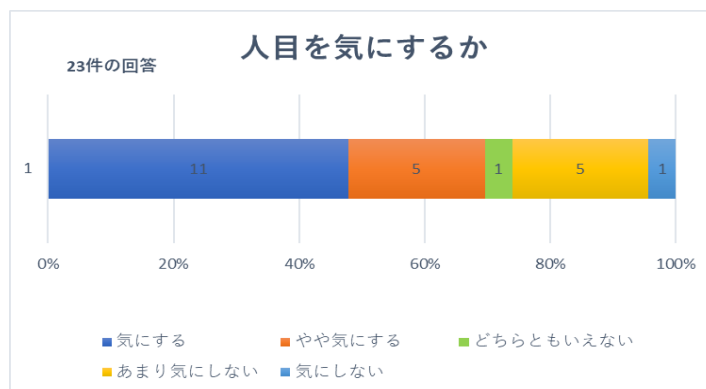
髪を染めることに興味がありますか
23件の回答



図表7 外見満足度



図表8 人目を気にするか



図表7は、「自分の外見に満足している」の設問の調査結果である。【満足している】は4.3%であり、【やや満足しているは】0%、【どちらともいえない】は21.7%、【あまり満足していない】は56.5%、【満足していない】が17.4%という結果になった。この結果から、自身の外見への満足度は低い傾向に見られ、満足している人との差が大きく開いた。図表8は、「自分は人目を気にするほうだ」という設問の調査結果であり、【人目を気にする】と答えたのが47.8%、【やや人目を気にする】と答えたのが21.7%、【どちらともいえない】が4.3%、【あまり人目を気にしない】が21.7%、【人目を気にしない】と答えた回答が4.3%となった。結果は、人目を気にする人が大多数であり、自身の行動や外見に対し人目を気にしている割合が多いことが分かった。髪を染めることへの興味はあるにも関わらず、人目を気にしている割合が多く、自己満足度が低い傾向にある。本調査では性格を問う項目や髪を染めたいと思う理由の調査項目を加え、性格と髪色の関係性の考察や、髪を染めたいと思う理由と染髪経験の関係性について考察する。

3. 本調査

調査方法

Google アンケートを使用したオンライン調査

調査時期

2020年 11月3日 木曜日 ～ 2020年 11月19日 木曜日

調査対象者

文教大学湘南キャンパス、文教大学越谷キャンパスに所属する学生 644名

配布数と回答数

合計配布数：644 有効回答数：253 有効回答率：36.5%

図表 9 文教大学の学生割り当て表

			学生数	割合	割り当て数	学生数/割り当て数の切り上げ	G列の切り下げ
湘南	情報	情報システム	1244	36%	89.3	13.82222222	13
		情報社会					
		メディア表現					
	経営	経営	729	21%	52.4	14	14
	国際	観光 理解	1106	32%	79.4	13.825	13
健康栄養	管理栄養	425	12%	30.5	13.70967742	13	
		合計	3504	41.94%	252		
越谷	人間科学	人間科学	1715	35%	123.2	13.83064516	13
		心理					
		臨床心理					
	文学	英米語英米文学	1566	32%	112.5	12.73170732	12
		外国語					
		日本語日本語文学 中国語中国文学					
	教育	学校教育課程	1570	32%	112.7	13.89380531	13
心理教育課程							
		合計	4851	58.06%	348		
		総合計	8355		600		

サンプリング方法

2020年度文教大学(湘南キャンパスまたは越谷キャンパス)に所属する学生の学籍番号を割り当てた表を用い、層化無作為二段抽出法にてサンプリングを行なった(図表9)。

まず初めに、9つの学部ごとに分類した。次に各学部の人数に応じて比例配分し、2020年文教大学の学籍番号割り当て表を用いて各学部の学科別、学年ごとに学籍番号で構成されたリストを作成し、各学部に割り当てられた人数を抽出した。

有効回答者の内訳

235名【男性 109名(46.4%)、女性 126名(53.6%)；平均年齢 19.95歳】

調査票の質問項目

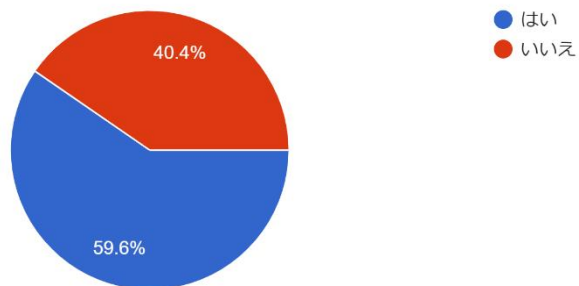
1. 質問者自身について（学部、性別、年齢）
2. 質問者の内面性（性格、思考）
3. 外見や髪について（染髪経験や、問題意識、印象）
4. 就職活動と髪色（髪色自由化、髪色の規定）

4. 本調査の結果

4-1 大学生と髪色

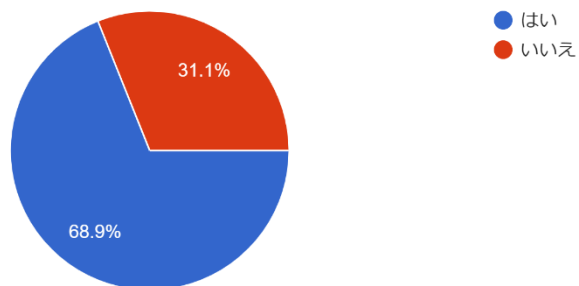
図表 10 髪を染めた経験の有無

髪を染めたことがある
235 件の回答



図表 11 髪を染める事への興味

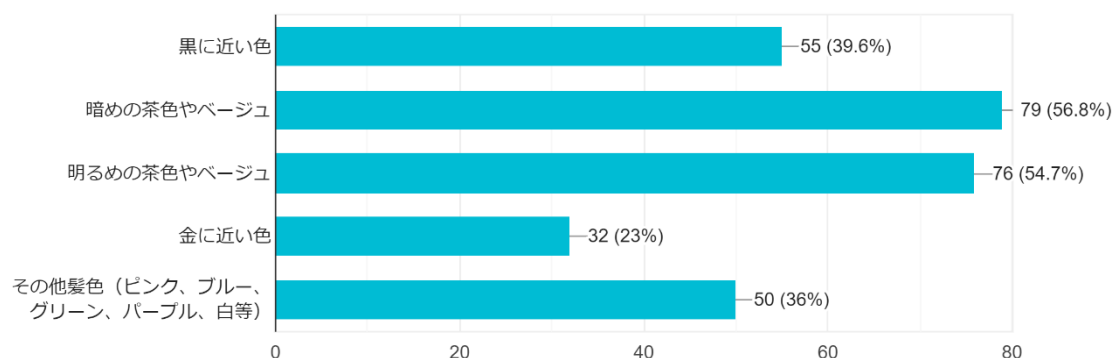
髪を染めることに興味がありますか
235 件の回答



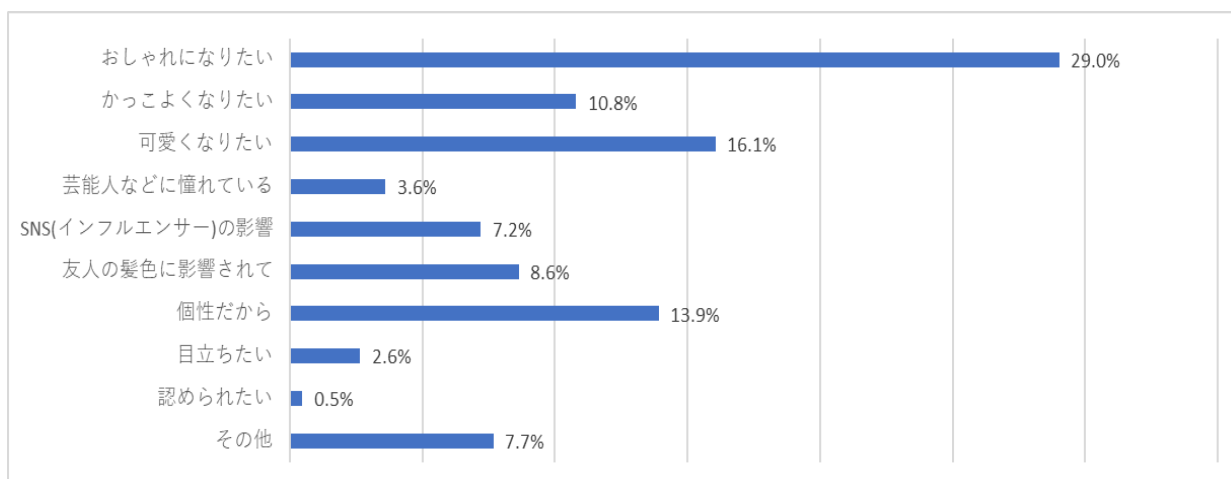
はじめに、「髪を染めた経験の有無」を調査したところ染めたことのある大学生は全体の約 6 割であり、大学生の半数が髪を染めた経験があることがわかった(図表 10)。そこで、「髪を染める事への興味」を伺うと全体の約 7 割が、興味があると応えた(図表 11)。髪を染めた経験がなくとも髪を染めることに興味を持っている人がいることが分かる。

図表 12 染めたことのある髪色

【複数回答】 今までに染めた色をお答えください部分染めも含む。※地毛は除く
139 件の回答

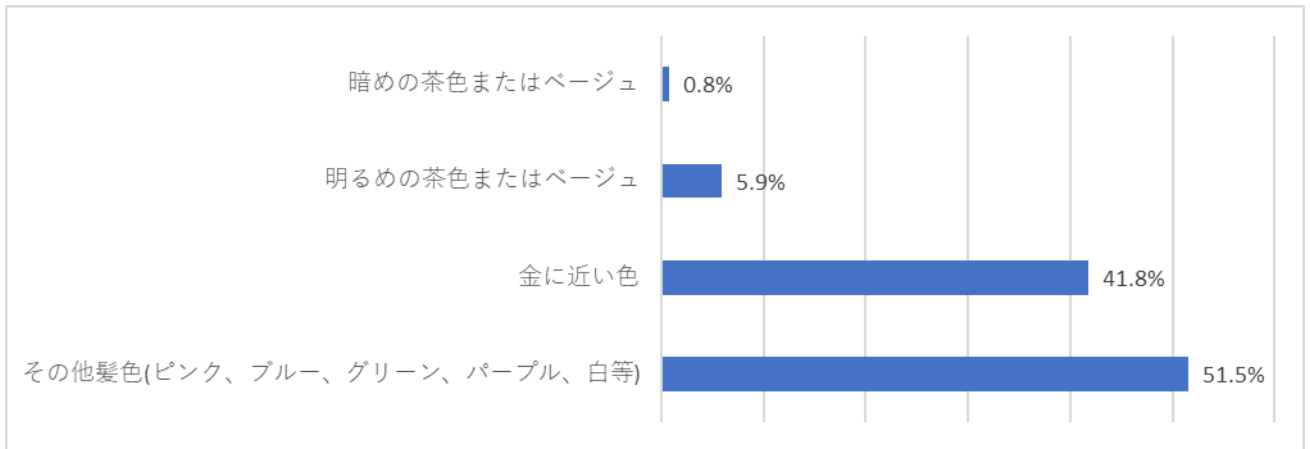


図表 13 髪を染める理由 (複数回答)



図表 12 より、「大学生が染めたことのある髪色」は、茶色やベージュの色が過半数であり、また約 4 割の大学生が黒に近い髪色に戻していることがわかった。その他髪色 (ピンク、ブルー、グリーン、パープル、白等) も、3 割以上といた。「大学生が髪を染める理由」として、【おしゃれになりたい】をはじめとし、【可愛くなりしたい】や【個性だから】という回答が多くみられた(図表 13)。

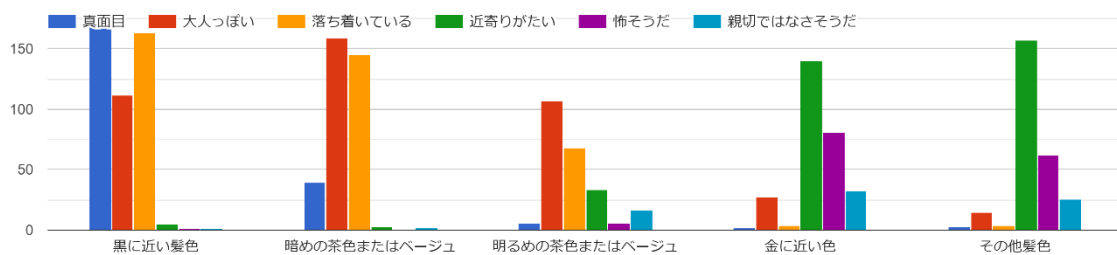
図表 14 派手だと思ふ髪色（複数回答）



図表 14 では、「派手だと思ふ髪色」についての調査結果である。結果では、【金に近い色】や、【その他髪色（ピンク、ブルー、グリーン、パープル、白等）】が派手だという声が多かった。本論文では【金に近い色】、【その他髪色（ピンク、ブルー、グリーン、パープル、白等）】を『派手な髪色』とする。

図表 15 髪色別の印象

【複数回答】あなたは、以下の髪色に対しどの印象が当てはまりますか。



次に「髪色別の受ける印象」を調査したところ図表 15 の結果が得られた。【黒に近い髪色】は、真面目や落ち着いているという印象が大多数であった。一方、近寄りやすいと答えた人も僅かながらいた。【暗めの茶色やベージュの髪色】は、真面目という回答は黒に近い髪色よりは、減ったが、大人っぽいという回答は黒髪よりも多かった。また、落ち着いているという回答も多く、悪い印象は少ないことが分かった。【明るめの茶色やベージュ】は、大人っぽい、落ち着いているという回答が多かったが、近寄りやすいや親切では

なさそうという印象を与えてしまうこともあるようだ。【金に近い髪色】では、大人っぽいという回答も僅かに見られたが、近寄りがたいという回答は大多数であり、怖そうだ、親切ではなさそうだという回答は全ての髪色の中で一番多く、マイナスのイメージが強いことが分かった。【その他髪色（ピンク、ブルー、グリーン、パープル、白等）】では、近寄りがたいという回答が他の髪色よりも多くみられた。図表 14 で【派手だと思う】に多く回答が得られた髪色はマイナスのイメージがつよく、特に近寄りがたいという印象を持っていることが分かった。

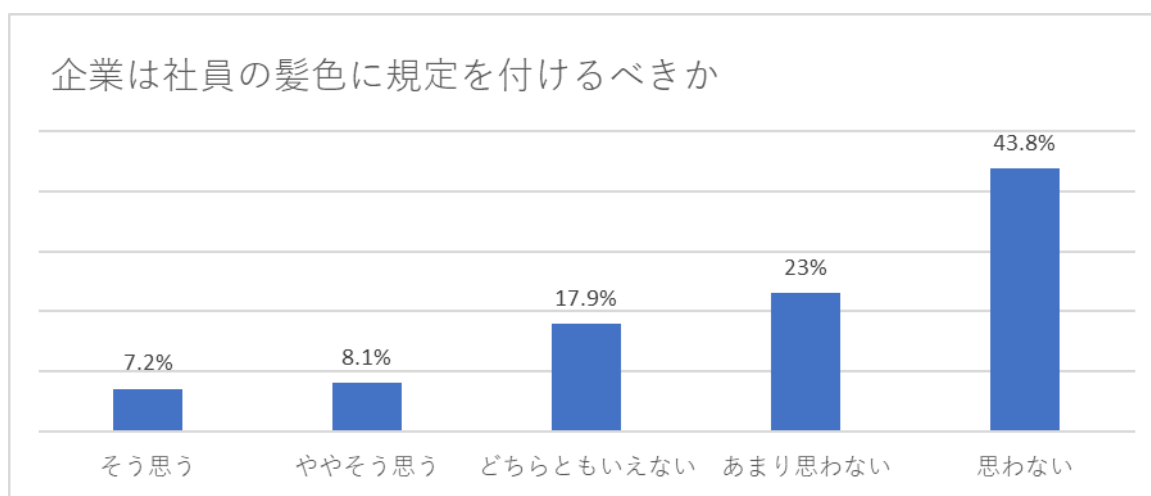
図表 16 髪色と社会問題

	増加する	減少する	どちらともいえない
治安問題	29.8%	9.4%	60.9%
人権問題（人種または性）	15.3%	38.7%	46.0%
セクシャルハラスメント	20.4%	14.0%	65.5%
パワーハラスメント	24.3%	18.3%	57.4%
虐待やDV	16.2%	8.9%	74.9%

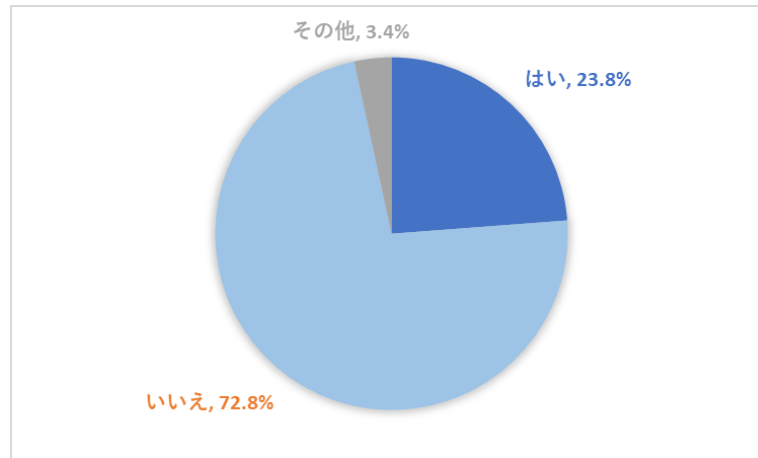
「大学生に明るい髪色や派手な髪色が学校や職場などの組織で許容された場合での社会問題の被害件数はどのように変化すると思うか」について調査した(図表 16)。

【治安問題】や【セクシャルハラスメント】、【虐待やDV問題】においては、増加すると回答した人が多かったが、人種や性での【人権問題】に対しては、被害件数が減少すると考えている回答の割合が多かった。【パワーハラスメント】では意見が分かれたが、やや増加すると回答した割合のほうが高かった。

図表 17 社員の髪色規定について



図表 18 就職希望先が髪色自由の場合、黒や暗い茶色以外の髪色で尋ねるか



※設問の選択肢は、「はい」、「いいえ」、「その他（記述式）」

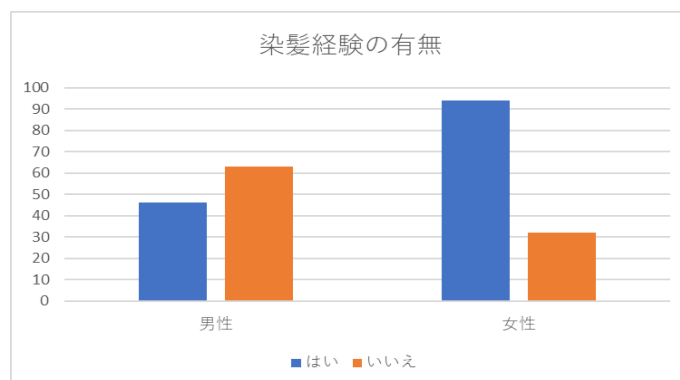
図表 17 では、「企業は社員の髪色に規定をつけるべきか」調査をした。結果として、規定をつけるべきではないと考えている割合が非常に高かった。

しかし、髪色自由な就職希望先に黒や暗い茶色以外の髪色で伺うかを調査したところ、7割以上の大学生が、黒や茶色以外の髪色で伺わないと答えた(図表 18)。その理由を自由記述で尋ねたところ、「第一印象は大切であるため」、「黒髪＝真面目の固定概念がまだ日本にはあると思うから」、「個性として、自由な髪色で自分を表現したいが、世間的には無難な色の方が、印象が良いから。」、「日本に住んでいる時点で、固定観念のようなものに従わないと同調意識の外に外れるから、社会の枠組みから外れるくらいなら、従ったほうが無難だと思う。」という意見があげられた。

黒や暗い茶色以外の髪色で伺うと答えた人の意見では、「人それぞれの個性であるので会社に支障がなければ問題ないと思ったから」、「自分の個性であり、それを本当に認めてくれる会社で働きたいから。」「アイデンティティであるから、他者からの働きかけによって変動させるものではない為。」、「暗髪より明るめの髪の方が顔色に合い、比較的明るい印象になるから」といった個性に関する意見や、明るい髪色の方が自分に合い印象は良くなるという意見であった。

4-2 性別と染髪

図表 19 男女別の染髪経験の有無



図表 20 男女別の染髪経験の有無

染髪経験の有無			
	はい	いいえ	合計
男性	46	63	109
	42%	58%	46%
女性	94	32	126
	75%	25%	54%
合計	140	95	235
	60%	40%	100%

図表 10 より、「髪を染めた経験の有無を調査」したところ、【染めたことがある】と回答したのは 59.6%、【染めたことがない】と回答したのは 40.4%であった。そこで男女別で染髪経験の有無に違いがあるかを見るため、カイ二乗検定を行なった(図表 20)。その結果、性別によって有意な差が見られた ($X^2(1)=25.5, p<.001$)。女性は男性よりも染髪経験があることがわかった。

図表 21 男女別の髪を染めることへの興味

髪を染めることへの興味			
	はい	いいえ	合計
男性	59	50	109
	54%	46%	46%
女性	103	23	126
	82%	18%	54%
合計	162	73	235
	69%	31%	100%

性別によって髪を染めることへの興味の違いをみるため、カイ二乗検定を行った（図表 21）。その結果、性別によって有意な差が見られた（ $X^2(1)=20.8, p<.001$ ）。女性は男性よりも髪を染めることへの興味があることがわかった。

図表 22 男女別の染髪の種類

染髪の種類								
	該当しない	一ヶ月に一度	2~3ヶ月に一度	4~5ヶ月に一度	半年に一度	一年に一度	それ以上	合計
男性	64	1	18	2	6	8	10	109
	59%	1%	17%	2%	6%	7%	9%	46%
女性	32	10	46	14	12	9	3	126
	25%	8%	37%	11%	10%	7%	2%	54%
合計	96	11	64	16	18	17	13	235
	41%	5%	27%	7%	8%	7%	6%	100%

次に、性別によって染髪の種類の違いを見るため、カイ二乗検定を行った（図表 22）。その結果、性別によって有意な差が見られた（ $X^2(6)=44.1, p<.001$ ）。性別によって、髪を染める頻度に違いがあることが分かり、女性は男性よりも髪を染める頻度が高かった。

4-3 染髪と理由

図表 23 染髪したいと思う理由

項目	対外的要因	影響要因	個人的要因	共通性
おしゃれになりたい	.764	-.223	.259	.664
かっこよくなりたい	.741	.116	.160	.608
可愛くなりたい	.624	.020	-.067	.396
芸能人などに憧れている	.484	.319	-.414	.534
SNS（インフルエンサー等）の影響	-.140	.808	.291	.741
友人の髪色に影響されて	.053	.671	-.093	.468
個性だから	.388	.456	-.028	.396
目立ちたい	-.072	.390	.706	.658
認められたい	.333	-.145	.673	.573
固有値	2.299	1.518	2.299	
累積寄与値	2.299			

「髪を染めたいと思う理由」の設問を用いて、因子分析を行なった。因子抽出の方法は、プロマックス回転を用いた主成分法による因子分析だ。その結果、図表 23 のように 3 因子が析出された。結果から、第一因子を「対外的要因」とし、第二因子を「影響要因」、第三因子を「個人的要因」とした。図表 21 の結果より、対外的因子を重視していることがわかる。

図表 24 染髪経験と染髪したいと思う理由

	染髪理由									
	個性だから	おしゃれになりたい	かっこよくなりたい	可愛くなりたい	芸能人などに憧れている	SNS（インフルエンサー等）の影響	友人の髪色に影響されて	目立ちたい	認められたい	
染髪の実験	.519**	.158*	.347**	.144*	.185**	.254**	.270**	.100	-.018	
									** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$	

次に染髪経験と染髪をしたいと思う理由の関係をみるために相関分析を行った(図表 24)。結果として、個性だから($r=.519$, $p<.01$)、かっこよくなりたい($r=.347$, $p<.01$)、の項目で高い正の相関がみられた。【個性だから】という影響要因や、【かっこよくなりたい】という対外的要因の理由で高い正の相関がみられた。髪を染める事に対し影響要因である【個性だから】という理由を持つ人ほど髪を染めた経験があることがわかる。

4-4 髪色の印象と性格

図表 25 大学生の性格

外向性		情緒不安定	
	平均値		平均値
人と交流することが好きだ	2.13	傷つきやすい性格である	2.38
明るく活発的な性格である	2.83	緊張しやすい	1.78
人から注目されたい	3.20	心配しやすい性格である	1.77

開放性		誠実性	
	平均値		平均値
想像力が豊かである	2.36	物事を計画的に進めるほうだ	2.83
臨機応変に対応することができる	2.73	責任感がつよいほうだ	2.11
好奇心旺盛である	2.34	ルールなど決まり事は守る	1.76

開放性	
	平均値
想像力が豊かである	2.36
臨機応変に対応することができる	2.73
好奇心旺盛である	2.34

また本調査では、性格と髪色の関係性を調査するために、特性5因子論を用いた。特性5因子論は、性格5因子は外向性、情緒不安定、開放性、誠実性、協調性である^{(4) (5)}⁽⁶⁾。これらの性格5因子は、人間の基本的な性格特性を表すものとして、統計的な検証がなされた指標である⁽³⁾。

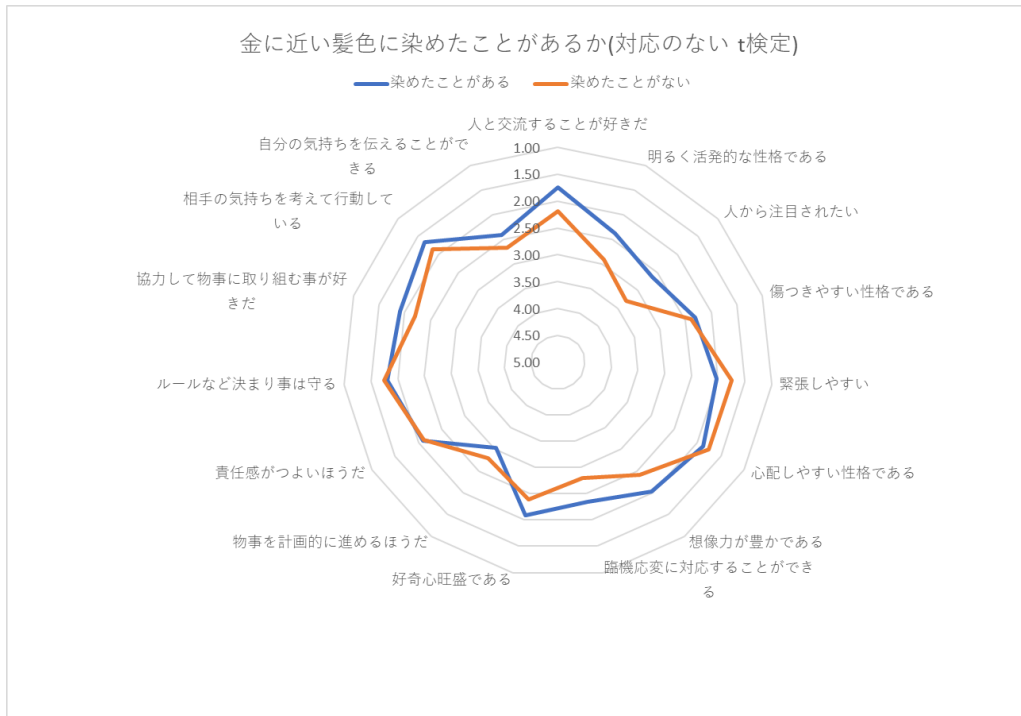
5因子は、【外向性(人と交流することが好きだ、明るく活発的な性格である、人から注目されたい)】、【情緒不安定(傷つきやすい性格である、緊張しやすい、心配しやすい性格である)】、【開放性(想像力が豊かである、臨機応変に対応することができる、好奇心旺盛である)】、【誠実性(物事を計画的に進めるほうだ、責任感がつよいほうだ、ルールなど決まり事は守る)】、【協調性(協力して物事に取り組む事が好きだ、相手の気持ちを考えて行動している、自分の気持ちを伝えることができる)】に分類される(図表25)。

図表 26 染髪経験による性格の違い



図表 26 では、「髪を染めた経験と性格の違い」を考察する。性格には特性 5 因子を用い、図表 25 で得られた性格 5 段階評定に得点をつけ（1=あてはまる、2=ややあてはまる、3=どちらともいえない、4=あまりあてはまらない、5=あてはまらない）対応のない t 検定をおこなった。その結果、外向性である【人と交流することが好きだ】の平均値は髪を染めたことがある人は、1.94(SD=0.883)、髪を染めたことがない人は 2.41(SD=0.952)であった。髪を染めた経験によって、【人と交流することが好きだ】の性格に違いがあるのかを検討するために、対応のない t 検定を行なった。その結果、これら 2 つの平均値の間に有意な差がみられた($t(233)=-4.006, p<.01$)。これらから、髪を染めたことがある人は、髪を染めたことがない人よりも、人との交流が好きであることがわかった。その他にも、【明るく活発的な性格である($t(233)=-4.078, p<.01$)】【人から注目されたい($t(233)=-4.651, p<.01$)】【相手の気持ちを考えて行動している($t(233)=-2.221, p<.05$)】【自分の気持ちを伝えることができる($t(233)=-2.511, p<.05$)】で有意な差がみられた。

図表 27 派手な髪色の染髪経験による性格の違い



図表 27 では、本稿で『派手な髪色』としている「金に近い髪色」に染めた経験の有無と性格の関係性をみるために対応のない t 検定を行なった。

その結果、外向性である【人から注目されたい】の平均値は金に近い髪色に染めたことがある人は、2.63(SD=1.431)、金に近い髪色に染めたことがない人は 3.29(SD=1.107)であった。金に近い髪色を染めた経験によって、【人から注目されたい】の性格に違いがでるのかを検討するために、対応のない t 検定を行なった。その結果、これら 2 つの平均値の間に有意な差がみられた($t(233)=3.007, p<.01$)。これらから、金に近い髪色に染めたことがある人は、金に近い髪色に染めたことがない人よりも、人から注目されたいことがわかった。その他にも【人と交流することが好きだ($t(233)=2.50, p<.05$)】【明るく活発的な性格である($t(233)=2.412, p<.05$)】【臨機応変に対応することができる($t(233)=2.252, p<.05$)】で有意な差がみられた。

5. 考察とまとめ

4-2 髪色と性別において、女性のほうが男性よりも髪を染めることに興味を持っていた。また興味だけではなく、染髪の実験の割合や、染髪の実度も女性のほうが男性よりも高かった。この結果より、性別によって髪を染めることへの興味は異なることがわかった。

4-3 染髪と理由での分析において、髪を染めたいと思う理由に対し因子分析を行った。結果として、「対外的因子」を重視していた。また、髪を染めた経験と理由で関係性が高かったのが、「個性だから」、「かっこよくなりたい」という理由であった。「個性だから」という影響要因や、「かっこよくなりたい」という対外的要因の理由を持つ人ほど髪を染めた経験があり、髪を染めることは個性と関係していた。

最後に 4-4 髪色の印象と性格では、特性 5 因子論（外向性、情緒不安定、開放性、誠実性、協調性）を元に分析をした。大学生の性格 5 因子で最も割合が高かったのは、社交性や活動性、積極性を表している外向性であり、環境刺激やストレスに対する敏感さ、不安や緊張の強さを表す、情緒不安定が低かった。

図表 15 より髪色別の印象を見たところ、「黒に近い髪色」は、【真面目】や【落ち着いている】という印象が強いが、【大人っぽい】という項目での回答は「黒に近い髪色」よりも、「暗めの茶色やベージュの髪色」の方が多かった。「暗めの茶色やベージュの髪色」は【落ち着いている】の回答が次に多く、暗めの茶色やベージュには悪い印象は少ない。一方「明るめの茶色やベージュ」では、【大人っぽい】、【落ち着いている】という回答が多かったが、【近寄りやすい】や【親切ではなさそう】という回答もみられた。「金に近い髪色」では、【怖そうだ】、【親切ではなさそうだ】という回答が全ての髪色の中で一番割合が多く、マイナスのイメージが強かった。「その他髪色（ピンク、ブルー、グリーン、パープル、白等）」では、【近寄りやすい】という回答が他の髪色よりも多かった。本論文での「派手な髪色」と位置づけている髪色は、マイナスのイメージが強かった。

そこで、図表 26 において髪を染めた経験のある大学生と染めた経験のない大学生の性格の違いをみるために、対応のない t 検定をおこなった。その結果、髪を染めたことがある大学生のほうが【人との交流を好む】傾向や【明るく活発的な性格である】ことが多く、外向性が高いことがわかった。次に、本論文で『派手な髪色』とした「金に近い髪色」に染めたことのある大学生と染めたことのない大学生の性格の違いを見るために、対応のない t 検定をおこなった。金に近い髪色に染めたことのある大学生は染めたことのない大学生よりも、【注目されたい】という気持ちや【人と交流することが好きだ】【明るく活発的な性格である】【臨機応変に対応することができる】という項目で有意な差がみら

れ、外向性だけではなく、開放性の一面もみられた。髪を染めたことのある大学生や、金に近い髪色に染めたことのある大学生は、より社交性や活動性、積極性であった。

最後に、大学生は、かっこよくなりたいなどの対外的要因や個性だからといった個人的要因で髪を染めるため、実際の性格とは異なることが多いが、髪を染めたことのある大学生の方が、社交性や積極性を表す外向性が高いことがわかった。しかし、派手な髪色は受ける印象がマイナスなものが多く、暗い髪色は、良い印象を与えることが分かった。黒に近い髪色は、真面目という印象を与えるため、就職活動において髪色は黒にする者が多いと考えられ、就職活動時の髪色の自由化は企業からキャンペーンなどを起こし、発足しない限り、実現化は難しいと考える(図表 18)。

5. 参考文献

[1] PANTENE 「# 令和の就活ヘアをもっと自由に」(最終確認日 2021/1/7)

<https://pantene.jp/ja-jp/hair-we-go/shukatsu-hair2019>

[2] 就活ジャーナル PRODUCED BY RECRUIT (最終確認日 2021/2/8)

「【内定者 500 人に聞いた】就活中の髪色、黒髪と茶髪どっちで臨んだ? いつどこで染めた?」

<https://journal.rikunabi.com/p/break/28738.html>

[3] 森岡陽介 (2015) 「髪色と長さが第一印象に及ぼす影響」『日心第 79 回大会』

https://www.jstage.jst.go.jp/article/pacjpa/79/0/79_2EV-071/_pdf/-char/ja

[4] Direct Communication 「ビッグファイブ性格診断」(最終確認日 2021/1/7)

<https://commutest.com/bigfive/>

[5] 村上宣寛 (2013) 「日本語におけるビッグ・ファイブとその心理測定的条件」

『性格心理学研究 第 11 巻 第 2 号 p70-85』

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jpjspp/11/2/11_KJ00002442203/_pdf/-char/ja

[6] 堀毛一也 (1999) 「主観的充実感とビッグ・ファイブ」

『現代行動科学会誌第 15 号. 1 -8』

<https://core.ac.uk/download/pdf/144255122.pdf>